

otc New Challenge Best Quality

株式会社 大阪チタニウムテクノロジーズ

2020年度 第1四半期決算 及び 業績予想
(補足資料)

2020年8月5日

I 2020年度 第1四半期における決算実績（概要）

【全社】

新型コロナウイルス感染症の拡大が影響し航空機向けをはじめチタンの需要が大きく減退しており、当第1四半期よりチタンの売上高が減少し、それに伴い営業損益は、対前年同期比減益となりました。

一方、半導体市場の回復により高機能材料事業は増収・増益となりました。

【事業セグメント別】

チタン事業

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を大きく受け、航空機用、一般産業用共に需要が大きく減退
当第1四半期より、販売数量の減少などの影響が出始めた

高機能材料事業

- ・半導体市場の回復に伴いスパッタリングターゲット用高純度チタンの販売数量が増加し、増収・増益となった
- ・球状チタン合金粉末（合金TILOP）の専用工場建設が完工し、本年度本格稼働を開始

その他

- ・岸和田製造所のポリシリコンプラントの撤去工事継続中（本年秋完了予定）

Ⅱ 2020年度 業績予想

(億円)	2019年度		2020年度				差異
	1Q実績	通期実績	1Q実績	上期予想	下期予想	通期予想	
売上高	94	381	66	90	90	180	▲201
営業利益	3	11	▲2	▲13	▲17	▲30	▲41
営業外損益	▲2	2	1	0	0	0	▲2
経常利益	1	13	0	▲13	▲17	▲30	▲43
特別利益	0	2	0	0	0	0	▲2
特別損失	0	▲2	0	0	0	0	2
税引前利益	0	13	▲1	▲13	▲17	▲30	▲43
法人税等	0	▲6	▲21	▲20	0	▲20	▲14
当期純利益	0	7	▲22	▲33	▲17	▲50	▲57

為替レート

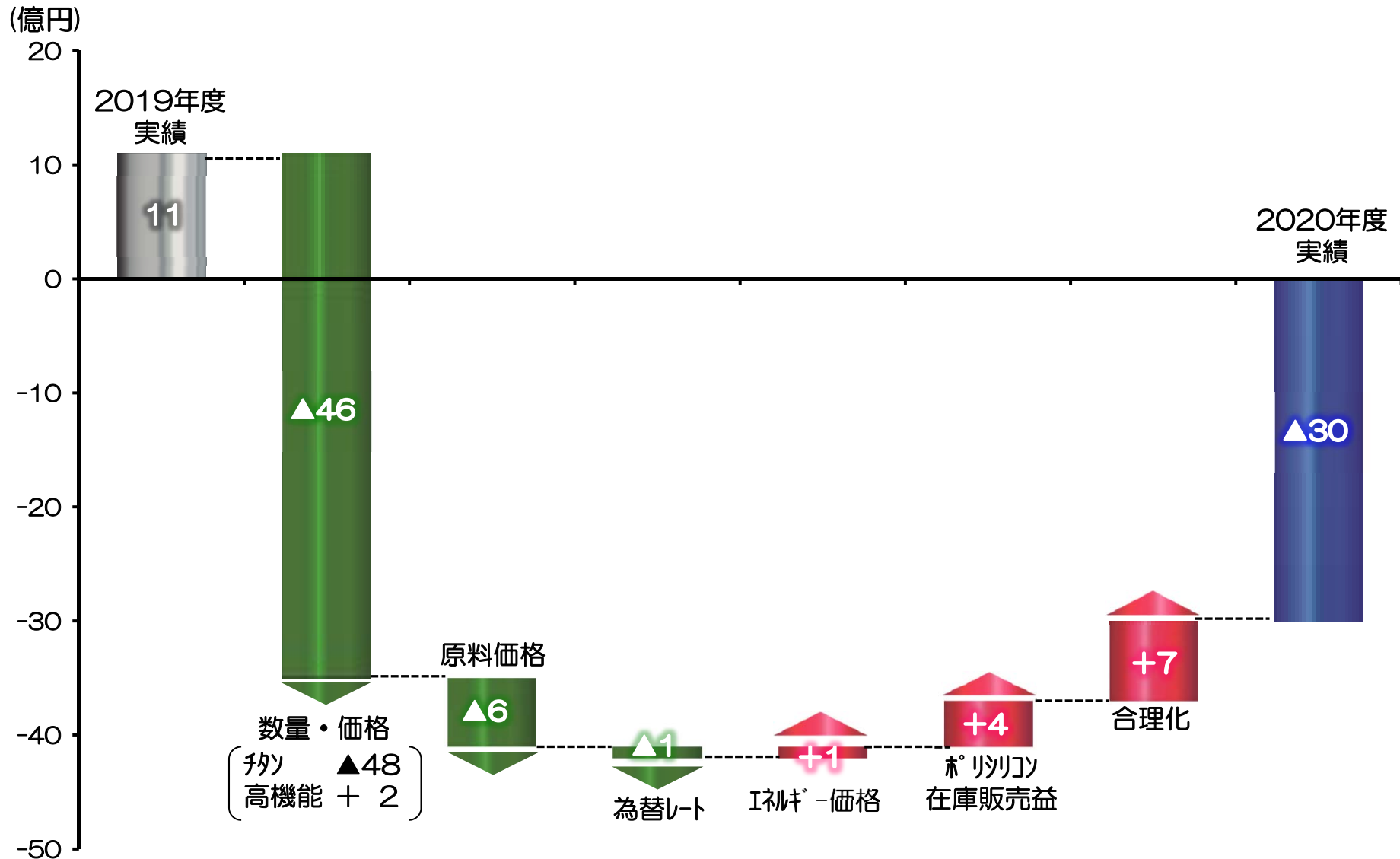
109円/\$

108円/\$

Ⅲ 2020年度 業績予想（事業セグメント別）

(億円)	2019年度 実績		2020年度 予想		差異	
	売上高	営業 利益	売上高	営業 利益	売上高	営業 利益
チタン事業	354	12	145 ▲35		▲ 209	▲ 47
高機能材料事業	20	0	30	2	+ 10	+ 2
その他 <small>（ポリシリコン 在庫販売）</small>	7	▲1	5	3	▲ 2	+ 4
計	381	11	180 ▲30		▲ 201	▲ 41

IV 2020年度 業績予想（営業利益増減内訳 対2019年度比）



V 2020年度 業績予想（概要）

チタン事業では、航空機向けを中心にチタン需要は堅調に推移すると想定しておりましたが、**新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大**により航空機の旅客数が急激に減少していることから、航空機生産機数の減少、航空機サプライチェーンにおける生産活動が停滞し、**スポンジチタンの需要が大きく減退しています。**

今年度の売上高におきましては、高機能材料事業が10億円増収の30億円の売上高を見込んでいるものの、**チタン事業の売上高が対前年度6割減の145億円**となることから、全社的に大幅な売上高の減少となる見込みです。

損益につきましては、コスト全般の削減に取り組んでおりますが、販売数量の減少の影響が極めて大きく、**営業損益は通期で▲30億円**と予想しています。

また、当第1四半期にて21億円の繰延税金資産を取崩しており、**通期の当期純損益は▲50億円**を予想しております。

*繰延税金資産の取崩しの前提として、新型コロナウイルス感染症拡大による影響が**当年度以降の複数年度継続し、その後はチタン需要も回復することを想定**しております。現時点では第2四半期以降の追加取崩しは見込んでおりません。

VI 2020年度 業績予想（配当）

株主還元方針

配当性向：安定性に配慮しつつ25～35%を目安

	2020/3月期	2021/3月期
中間	0円/株	未定
期末	5円/株	未定
年間	5円/株	未定

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断した予想であり、不確定要素を含んでおります。このため、様々な要因により、実際に生じる結果が予測内容と異なる可能性があることをご承知下さい。本資料利用によって生じるいかなる結果につきましても、当社が責任を負うものではありません。